

「病院のあり方に関する報告書 2007年版」の提言

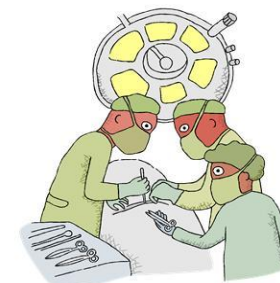
- 医療従事者不足が指摘される現状あるいは中小病院が多い日本の医療提供体制の現状を踏まえると、医療安全と効率性確保の観点から、主に医療度にあわせた人的資源の集中化を図るべきであり、病期別の機能分化が適当である
- 全日病は、一般病床と療養病床それぞれの医療提供内容を再検討し、地域特性も考慮した柔軟な病床運営を可能とする制度の再設計をすべきとの考えに立ち、各病期別機能分化を重視した以下の提言を行う

病床区分	病棟区分とその機能	
一般病床	高度医療病棟	先端医療など医療密度の極めて高い医療の提供
	急性期病棟	一般的な急性疾患、外科的処置を要する疾患患者の受入
	地域一般病棟	地域における軽度～中等度の急性疾患患者の受入 急性期病棟からの亜急性期患者の受入 地域の在宅医療・介護保険施設等のネットワーク支援
	回復期リハ病棟	リハビリに特化した専門病棟
療養病床	療養病棟	医療密度の高い長期療養患者の受入

四病院団体協議会で提唱する「地域一般病棟」の医療連携



地域（二次医療圏）基幹病院
救命救急センター



高度な急性期医療・救急医療を要する患者を紹介

- ・亜急性期患者（リハビリテーション、引き続き入院）の受け入れ
- ・高度でないが、入院を要する救急患者の受け入れ



地域一般病棟



地域（一次医療圏・生活圏）における軽度～中等度の急性期医療

地域住民

在宅患者

医療療養病床

介護保険施設

日本病院団体協議会の提言

「医療・介護提供体制および診療報酬体系のあり方について」(平成20年12月)より

- 入院医療については、下記のように病棟単位で機能分化されることが望ましい。
 - ・ 高度機能病棟 — 稀な疾患の診療や先進医療(遺伝子治療、特殊な癌治療など)を診療する病棟で、対象疾患を十分調査した上で認定
 - ・ 急性期病棟 — 技術が確立された手術、重症度の高い患者などに対応できる病棟
 - ・ 地域一般病棟 — 軽～中等度の急性期疾患に対応するとともに、急性期病棟から引き続き入院医療やリハビリテーションを要する患者を受け入れる病棟
 - ・ 回復期リハビリテーション病棟 — リハビリテーションに特化した病棟
 - ・ 慢性期病棟 — 主として急性期病棟や地域一般病棟等からの、医療必要度の高い長期入院患者に対応する病棟

- 複数の病棟を持つ病院は、それぞれの地域における医療提供体制の整備状況等を踏まえ、様々な組み合わせを可能とする。
 - (例) 高度機能病棟＋急性期病棟
 - 急性期病棟＋地域一般病棟
 - 地域一般病棟＋回復期リハビリテーション病棟＋慢性期病棟